

[第 1 号議案]

1-1. 2024 年度事業報告書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業 1：一般社団法人としての運営
5. 実施事業 2：若手活性化
6. 実施事業 3：会員交流
7. 実施事業 4：イベント・国際連携・学会連携
8. 実施事業 5：最強データベース講義
9. 実施事業 6：データ作法（セミナー等）
10. 実施事業 7：学生企画
11. 実施事業 8：産学連携推進
12. 実施事業 9：情報システム
13. 実施事業 10：広報
14. 実施事業 11：論文誌編集
15. 実施事業 12：表彰
16. 実施事業 13：ハラスメント防止・D&I 推進

2024 年度事業報告書

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2024 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 4 年目であった。2021 年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022 年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023 年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正、内規の整備を行い、さらなる学会発展を目指す方向性、活動について議論した。2024 年度は役員改選を行い、委員会体制を刷新し、新たな活動として若手活性化、会員交流に焦点をあて事業を推進した。これにより、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行った。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与してきた。

2. 会員数について

2021 年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021 年度より DEIM の参加者は DBSJ 会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が 2022 年度は 822 名、2023 年度は 895 名と大幅に会員が増加した。

2023 年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来 DBS 研、DE 研登録者はフルアクセス権付だったが、その特典を無くし、第一種正会員は年会費を支払うこととした。ただし、DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより、その年度の年会費を支払ったか、前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員と

なる。2024 年 4 月に DEIM2024 参加者から第一種正会員、学生会員への登録作業を行った。2024 年 7 月に、DEIM2024 に参加せず、2024 年度の年会費を支払わなかった第一種正会員 68 名を第二種正会員に変更した。

2025 年 2 月 27 日から開催された DEIM2025 では、会員価格で参加する条件として、事前に会員となることを徹底したため、参加申し込み前の入会が増加した。

名誉会員は、2024 年 3 月に 15 名任命した後、2025 年 1 月に 1 名任命した。

維持会員は、2024 年度総会後に 2 社入会したが、1 社退会した。

以下に、2021 年度から 2024 年度まで各年度の総会時点と 2024 年度末（2025 年 3 月末）時点での会員数を示す。

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年 3 月末
正会員	484 名	822 名	895 名	944 名	1013 名
第一種				419 名	365 名
第二種				525 名	648 名
名誉会員				15 名	16 名
学生会員	74 名	503 名	750 名	989 名	1198 名
維持会員	21 社	26 社	26 社	24 社	25 社

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることのできる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を実施した。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努めた。

3.1 2024 年度 定時総会

2024 年 6 月 22 日(土)にリクルート（本社）にて、ハイブリッドで開催した。

3.2 理事会および各種委員会

理事会は以下の通り、計 8 回開催した。

第 34 回はハイブリッド開催、他はオンライン開催であった。

第 29 回：2024 年 5 月 31 日(金)	第 30 回：2024 年 6 月 2 日(土)*
第 31 回：2024 年 7 月 27 日(木)	第 32 回：2024 年 10 月 7 日(月)
第 33 回：2024 年 11 月 26 日(火)	第 34 回：2024 年 12 月 14 日(土)*
第 35 回：2025 年 2 月 5 日(水)	第 36 回：2025 年 3 月 29 日(土)

維持会員が参加する評議委員会を 2024 年 9 月 24 日(火)にオンラインにて開催した。
その他各種委員会もすべてオンラインにて開催した。

4. 実施事業 1：一般社団法人としての運営（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では、今年度の改善項目を挙げている。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度の継続的見直し

会員規程を第一種正会員と第二種正会員の権利を明示するように改定し、それに従って DEIM2025 の参加費を設定した。また、DEIM2025 の参加申し込みの際、会員には DBSJ 会員証明 ID を記載してもらうことで、会員 DB との照合を効率化した。2023 年度に名誉会員に関する内規を整え、名誉会員を 15 名選出した。2024 年度には 1 名追加があった。また 2024 年度には、すでに退会されている方も名誉会員として選出できるよう規定を改定した。

4.2 委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第 4 条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会や組織の構成を随時見直している。2024 年度は若手活性化委員会、会員交流委員会を新設し、ハラスメント防止・D&I 推進委員会を常設委員会として追加した。ほとんどの委員長が交代し、前委員長がアドバイザーとしてサポートする新しい体制で運営した。2025 年度の事業計画を策定するなかで、D&I を DE&I（ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン）とし、ハラスメント防止・DE&I 委員会と名称変更することになった。

4.3 DBSJ 主催による各種活動の支援

DBSJ 主催イベントを活性化するため、DEIM 等の DBSJ 主催の各種イベントの開催における一部経費を支援することになっている。

2024 年度は DEIM2025 のケータリング費用を支援した。

4.4 事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため、事務局業務の一部委託を継続している。

また、専門的な知識が必要となる課題を解決するため、必要に応じて専門家への業務委託を実施することになっているが、2024 年度は特に業務委託の必要はなかった。

4.5 理事交代方法改善の検討

2024 年度の委員会体制では、委員長が交代した場合、前委員長がアドバイザーになってサポートするようにした。これにより、役員選挙の実施方法を変更しなくとも、委員会が実施している事業の継続性が担保され则认为。次回の役員選挙においても、実施事業の継続性を考慮して、役員候補を選出する

連携組織（DBS、DE、SIGMOD-J）の組織長が理事以外の人に交代した場合には、つぎの役員選挙までは、理事会にオブザーバ参加していただくことで対応している。

4.6 会計業務の継続的見直し

2023 年度に、一般社団法人日本データベース学会は、消費税課税業者となった。さらに、2023 年 10 月からはインボイス制度、2024 年 1 月 1 日からは電子帳簿保存法が施行されたため、外部の税理士法人による定期的な内部会計監査などを実施してきた。2024 年度も税理士法人の支援を得ながら、継続的に会計業務の見直しを実施している。

4.7 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めてきた。具体的には、9 月 24 日に開催した評議委員会にて、維持会員の代表である評議委員からの意見を伺い、本会の活動を見直した。12 月 14 日に第 34 回 DBSJ 理事会をリアル会場および Zoom によるハイブリッドで開催し、理事会終了後に来年度以後取り組むべき課題についてディスカッションした。ディスカッションの結果を 2025 年度事業計画に反映している。

5. 実施事業 2：若手活性化（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：若手活性化委員会

本事業の目的は、本学会の未来を担う若手研究者の活動を活性化させるための機会を提供するものである。若手研究者が主体的に行う研究活動の事務的・金銭的支援や、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動を DBSJ として実施する。

【活動概要】

(1) 若手研究者によるオーガナイズドセッションの開催支援

2024 年 9 月に開催した WebDB 夏のワークショップ等において、若手研究者によるオーガナイズドセッションを募集すると共に開催支援を行った。具体的には、招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に、会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートした。

WebDB2024 オーガナイズドセッション(i)

「偽情報対策技術」

オーガナイザ：佐々木 佑樹，北島 信哉（富士通株式会社）

一般発表 3 件と 1 件の招待講演。

WebDB2024 オーガナイズドセッション(ii)

「大規模言語モデルとデータ管理：機会と脅威」

オーガナイザ：曹 洋（東京工業大学）

4 件の招待講演とパネルディスカッション。

(2) 若手オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援に関する検討

若手研究者が提案・実施する研究イベントにおける研究発表に対して、これを提案・実施した若手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号の発行について、論文誌委員会と連携し検討した。2024 年度より論文誌特集号の編集・発行が可能であることを若手オーガナイザに案内したが、希望が無かったため実施は見送られた。

(3) 若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動の検討

WebDB 夏のワークショップや DEIM フォーラム等において、若手が励みになるような若手研究者向けの賞を検討するなど、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動について検討した。具体的な実施案の策定には至っておらず、今後も検討を継続する。

(4) 若手活性化事業の広報および若手の要望を抽出するための Web サイト構築

本委員会の活動を広報するための Web サイトを DBSJ の Web サイトの中に立ち上げた。https://dbsj.org/activating_young_people/

6. 実施事業3：会員交流（定款第4条第1項8号）

担当：会員交流委員会

本事業の目的は、DBコミュニティの学生を含む若手研究者の交流を促進するための機会を提供するものである。DBコミュニティに関連する学術イベント等において、会員同士が交流出来る場を提供し、特に若手研究者同士の交流を促進することで本コミュニティの活性化に寄与することを目指す。

【活動概要】

（1） WebDB 夏のワークショップにおける懇親会および交流会の開催サポート

研究発表セッション終了後に実施した懇親会に学生参加者が参加しやすいよう、学生に対する参加費サポートを行った（懇親会会費6千円のところ、1名あたり4千円を補助、30名分合計12万円）。また、懇親会終了後のナイトセッション（交流会）においても、開催サポートを行った。

（2） DEIM オンサイト企画 BoF におけるケータリングのサポート

毎年更新される組織委員による運営を DBSJ がバックアップすることで、DEIM フォーラムにおける会員交流イベントの継続的・安定的な実施をサポートした。本件は、DEIM 内で実施するイベント企画であるためイベント委員会とも連携しながらサポートを行った。

（3） 会員交流促進に関する方策の継続的な検討

本学会における会員交流の促進は重要な課題である。そこで上記の活動に限らず、継続的に会員交流促進に関する方策の検討を行っている。なお、この検討は当委員会メンバー内の議論に閉じることなく、交流会の場などでも問題意識を共有することで、多くの学会会員に当事者意識を持ってもらい、今後も学会全体で検討していく。

（4） 会員交流事業の広報のための Web サイト構築

本委員会の活動を広報するための Web サイトを DBSJ の Web サイトの中に立ち上げた。
(https://dbsj.org/member_interaction/)

7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携（定款第4第1項1号）

担当：イベント委員会・国際連携委員会・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントの企画、海外のDB コミュニティとの連携、および他学会との連携を図ることである。国内のDB コミュニティの活性化及び拡大化のためのイベントとしては、DEIM, SoC, WebDB 夏のワークショップを企画・運営する。国際連携では、ACM との連携(SIGMOD-J)、および日本と韓国(KJDB)、中国、タイ間のDB コミュニティとの連携を深める。学会連携ではDBSJと各学会のDB系研究会との連携を深める。

【活動概要】

（イベント）

（1）データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM）

開催日時：2月27日（木）～3月1日（土） オンライン：口頭発表

3月3日（月）～3月4日（火） オンサイト

開催場所：ZoomEvents（オンライン会場）、福岡国際会議場（オンサイト会場）

論文発表 429 件

インタラクティブ発表 386 件（内デモ 46 件）

スポンサー数：24 社

プラチナ：7 社（新規 1 件）

ゴールド 15 社（新規 3 件）

シルバー：2 社（新規 1 件）

維持会員 13 社、非維持会員 11 社

参加者数： 840 名

（2）ソーシャルコンピューティングシンポジウム（SoC）

開催日時：2024 年 6 月 22 日（土）10:30-17:15

開催場所：リクルート（本社）（ハイブリッド開催）

東京都千代田区丸の内 1-9-2 グラントウキョウサウスタワー

参加者数：61 名（オンライン 16 名）

（3）WebDB 夏のワークショップ

WebDB 夏のワークショップ 2024 (情報処理学会 第 179 回 データベース システム研究会・情報処理学会 第 156 回 情報基礎とアクセス技術研究会・電子情報通信学会 データ工学研究会 合同研究会)

開催日時： 2024 年 9 月 11 日（木） 13:00～17:15, 9 月 12 日（金） 9:00～16:30

開催場所： 淡路夢舞台国際会議場（3 階会議室 301, 311）

参加人数： 88 名

発表件数： 41 件（DBS：29 件, IFAT：4 件, DE：8 件）

（国際連携）

（1）ACM： SIGMOD-J

ICDE2024 & VLDB2024 国際会議報告を実施した.

開催日時：2024 年 9 月17 日（土）

開催場所：オンライン（Zoom）

参加者数：30 名

（2）韓国： Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop（KJDB）

開催日時：2024 年 11 月15 日（金）～17 日（日）

開催場所：WANGYIJIMIL、全州（韓国）

参加者数：54 名（日本側は現地参加 18 名、リモート参加 4 名）

（3）中国

CCF TCDB（中国计算机学会数据库专业委员会）メンバーが DEIM2025（福岡）を訪問し, Aoying Zhou 教授（中国華東師範大学）による招待講演, および交流会を開催した.

（4）タイ

タイの DB コミュニティとの連携について, 具体的な連携イベントを検討中である.

8. 実施事業 5：最強データベース講義（定款第 4 第 1 項 1 号及び 7 号）

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は, DB 関連分野の各項目について, その道の第一人者ならではの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し, 大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である.

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

(1) 講義コンテンツの作成と配信

- (a) 最強データベース講義：大学院生，エンジニア，研究者を対象とした講義
- (b) 最強データベース講義ベーシック：初学者（学部生）を対象とした講義
- (c) 最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義

(2) 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査

(3) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開

(4) 講義コンテンツの LLM 学習や RAG 等への利用を想定したデータセット整備

(5) コンテンツを利用した勉強会等派生イベント，他の活動(DEIM 等)への接続性の検討

【今年度の実績】

6 月 5 日 #33 プライバシー保護した連合学習（曹洋先生）

申込者数 79 名（学生 5、一般 74）

8 月 7 日 #34 データストレージの歴史（合田和生先生）

申込者数 107 名（学生 1、一般 106）

11 月 27 日 #35 大規模言語モデルに基づく検索モデル（加藤誠先生）

申込者数 134 名（学生 10、一般 124）

4 月 23 日 #36 2025 年現在の NewSQL（小林隆浩氏）

申込者数 412 名（学生 10 名、一般 402）

- connpass グループ登録者数(2024 年 3 月 23 日現在)：2158 名

- Youtube チャンネル登録者数(2024 年 3 月 23 日現在)：8850 名

9. 実施事業 6：データ作法(セミナー等)（定款第 4 第 I 項 1 号及び 5 号）

担当：セミナー委員会

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し、法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から著作権法や個人情報保護

法，AI や医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため，法律の専門家による法的な課題の講演に加えて，企業などからの実践的な課題に対する講演，さらには参加者を交えた深掘りの議論をするためのパネルディスカッションで構成されるセミナーとして企画・開催している。2024 年度はセミナー委員会では Slack を用いた議論を行い，「生成 AI の研究・開発への利活用」をテーマとしたセミナーを計画し，以下のように開催した。なお，第 2 回 DBSJ セミナーは DEIM2025 のチュートリアル枠で実施し，ハイブリッド開催とした。

2024 年 12 月 21 日(土) 13:00 – 17:00

第 1 回 DBSJ セミナー「生成 AI の安全性における法的課題や活動事例」

講演 1：AI の安全性に関する議論と取り組み

株式会社 ABEJA 弁護士

古川直裕

講演 2：AI 社会の安全確保に向けた取り組み

AI セーフティ・インスティテュート 副所長・事務局長

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) デジタル基盤センター長

平本健二

講演 3：IBM における AI ガバナンスへの取り組み

日本アイ・ビー・エム株式会社 テクノロジー事業本部

データ・AI・オートメーション事業部 プロダクトマネージャー

小山政宣

パネルディスカッション モデレーター 横田治夫(DBSJ 会長)

古川直裕，平本健二，小山政宣，柿沼太一(弁護士法人 STORIA，DBSJ 理事)

聴講者 約 65 名

2025 年 3 月 3 日(月) 10:00 – 14:30

第 2 回 DBSJ セミナー「AI の研究開発への活用について - 生成 AI を活用した研究やビジネスにおける法的課題や活動事例最前線 - 」

講演 1：3D 生成モデル研究事例と研究活動における AI 活用事例の紹介

大阪大学 D3 センター サイバーメディア教育研究部門 准教授

千葉直也

講演 2：独自 LLM 開発の実際と企業内での実践について

株式会社リコー AI インテグレーションセンタ 所長

梅津良昭

講演 3：研究開発における AI 利用と法的課題

STORIA 法律事務所パートナー弁護士，DBSJ 理事

柿沼太一

パネルディスカッション：モデレータ 横田治夫(DBSJ 会長)

千葉直也, 柿沼太一, 松村優也(株式会社 LayerX)

聴講者：約 200 名(会場, 午前午後延べ人数), 約 90 名(オンライン, 午前午後延べ人数)

10. 実施事業7：学生企画（定款第4第1項3号）

担当：企画委員会

本事業の目的は、本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし、学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に、学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう、DBSJ として支援する。

【活動概要】

2024 年 6 月～7 月に学生企画の運営委員会を発足させ、8 月より企画の検討を開催、下記 2 件のイベント企画開催のサポートを実施した。

(1) DBSJ 学生企画第 14 弾（Zoom 配信企画）

- 日時：2025 年 1 月 22 日（水） 18:00-19:00
- 講師：LayerX 松村優也氏
- 講演タイトル：LLM 活用の現在とこれから
- 概要：近年注目が集まる大規模言語モデル（LLM）に対する LayerX での取り組み、特に実際のプロダクトにおける LLM の活用についてご講演いただいた。あわせて、学部生や専門でない方向けに LLM の基礎・概要についてもお話いただいた。
- 参加者：45 名

(2) DBSJ 学生企画第 15 弾（産学連携委員会との合同企画）

- タイトル：DB 談話室 ～研究者としての生活の「リアル」～
- 日時：2025 年 3 月 3 日（月） 17:10～18:40
- 開催形態：オンサイト（DEIM2025 会場）でのパネルディスカッション
- モデレータ：吉丸直希さん（同志社大）他学生企画の皆さん
- パネリスト：上野 史先生（岡山大学）、SHE XINYI 様（日立製作所）、山本 祐輔先生（名古屋市立大学）、佐々木 佑樹様（富士通）、榎 美紀様（日本 IBM）、渡辺 知恵美先生（筑波技術大学）、横山 昌平先生（東京都立大学）

- 参加人数：96 名
- URL: <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/deim2025/content/bof>

1 1. 実施事業 8：産学連携推進（定款第 4 第 1 項 3 号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間、さらにはインダストリアルとインダストリアルの間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

- ・東芝デジタルソリューションズ：GridDB Enterprise Edition

→ 3 件の利用申請があり、それぞれを承認、研究に活用いただいた

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究を支援するプログラムであり、本年度は、2024 年 12 月 13 日（金）に一橋講堂にて開催された。

(<https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/2024.html>)

発表件数は、ポスターセッション 32 件、スタートアップセッション 20 件、データ提供者からの発表 22 件、および前年度の受賞者からの口頭発表 2 件であり、参加者数は 146 名（現地参加）+48 名（オンライン参加）と盛況であった。

下記の発表に対し、DBSJ 特別賞を授与し、DEIM2025 への招待を行った。

- ・安田大輝氏（東京科学大学 工学院 経営工学系）

・タイトル：アスペクト情報を活用した知識グラフ上のパス推論による説明可能なホテル推薦システム

- ・ポスター原稿：https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/poster/IDR-UF2024_P06.pdf

なお、安田氏は、DEIM2025 の研究発表においても高く評価され、企業賞を受賞されており、優秀な研究を行っている学生、その指導をされている先生を DBSJ のコミュニティに引き込むことができた。

(3) 産学連携マッチング促進のための取り組み

産学連携マッチングの促進を目的として、SoC2024 にて下記のパネルディスカッションを開催した。

- 開催日：2024 年 6 月 22 日
- セッション名：「産学連携トークセッション ～ “産”のホンネ × “学”のホンネ」
- 実施形態：パネルディスカッション
- モデレータ：櫻井一貴氏(リクルート)
- パネリスト：灘本明代先生（甲南大）、金政泰彦氏（富士通株式会社）、塩川浩昭先生（筑波大）
- トピック：産学連携の様々なトピックの中でも、「就職活動」にフォーカス
 - 『産→学』 企業が求めている人材／入社後の研究事情／博士号の意義
 - 『学→産』 就職先として魅力的な企業／企業の学生へのアプローチの仕方／学が考える「優秀な学生」

また、学生企画（企画委員会）と合同で、研究者のワークライフバランスに関するパネルディスカッションを企画し、DEIM2025 にて開催した。詳細は、企画委員会の事業報告欄に記載。

(4) DBSJ 維持会員新規特典に関する取り組み

DBSJ 維持会員新規特典として、「維持会員企業 - DBSJ コミュニティ間のマッチングサービス（仮）」を企画し、DEIM2025 にて試行した。

- 背景：DBSJ 関連企業意見交換会において、維持会員の企業様が、DBSJ コミュニティへのアプローチに課題を抱えているという声が上がっていた。
- 目的：DEIM2025 では、DBSJ コミュニティに属する多くの先生方がいらっしゃるため、維持会員企業と先生方の接点を創出する。

結果、DEIM2025 オンサイト会期中にて、新規に DBSJ 維持会員になっていただいた企業様 2 社様と活発な議論を実施。データ提供型産学連携プログラムなどの紹介を行った。

1 2. 実施事業 9：情報システム（定款第 4 第 1 項 6 号）

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

(1) Web・会員 DB の運用・維持

本会 Web ページや会員データベースシステムについて安定した運用と維持管理を実施した。

1 3. 実施事業 10：広報（定款第 4 第 1 項 2 号）

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

(1) News Letter の刊行

2024 年度は以下の News Letter を発行した。News Letter は従来のメール配信だけでなく、本会の Web ページでも、Web ページの体裁に合わせた形式で写真付きの著者紹介付きで掲載するようにした。

- ・ 4 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 4 月号（Vol. 17, No. 1）発行
（DEIM2024 開催報告, AAAI2024, IEEE BigComp 2024, EMNLP2023 参加報告）
- ・ 5 月 2 日：DBSJ Newsletter 2024 年 5 月号（Vol. 17, No. 2）発行
（日本データベース学会受賞特集号）
- ・ 6 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 6 月号（Vol. 17, No. 3）発行
（ICDE 2024, PAKDD 2024 参加報告）
- ・ 8 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 8 月号（Vol. 17, No. 4）発行
（DASFAA 2024 開催報告, DASFAA 2024, SIGMOD 2024, WWW 2024 参加報告）
- ・ 10 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 10 月号（Vol. 17, No. 5）発行
（ICML 2024, KDD 2024, ECML PKDD 2024 参加報告）

- ・ 11 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 11 月号 (Vol. 17, No. 6) 発行
(若手研究者対談企画号)
- ・ 12 月 1 日：DBSJ Newsletter 2024 年 12 月号 (Vol.17, No. 7) 発行
(ACM RecSys 2024, ACM CIKM 2024, ACM Multimedia 2024, EMNLP 2024 参加報告)
- ・ 2 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 2 月号 (Vol.17, No. 8) 発行
(VLDB 2024, ICDM 2024, ICADL 2024 参加報告)

1 4. 実施事業 1 1：論文誌編集 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

日本データベース学会論文誌 (和文・英文) および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行した。

- (1) 日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行
 - (ア) 自由投稿論文を対象
 - (イ) 和文論文誌 (Vol. 23-J) の発行
和文論文誌に論文 3 編を採録した。今年度は英文誌の発行はなかった。
- (2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
 - (ア) Vol. 3 の発行
論文 6 編を採録した。
- (3) 論文誌に関する課題について検討

1 5. 実施事業 1 2：表彰 (定款第 4 第 1 項 8 号)

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

【活動概要】

1. dbjapanにおいて、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞に関する推薦依頼を行った。
2. 表彰委員会を立ち上げ各賞の選定を行い、DEIM 2025にて表彰式を開催した（2025年3月4日）。

今年度の受賞者は以下の通り。

功労賞	飯沢 篤志 氏
若手功績賞	山口 晃広 氏
	松原 正樹 氏
	劉 健全 氏
	北島 信哉 氏
	榎 美紀 氏
	吉田 光男 氏
上林奨励賞	高木 駿 氏
	小幡 紘平 氏

16. 実施事業13：ハラスメント防止・D&I推進（定款第4第1項4号及び8号）

担当：ハラスメント防止・D&I推進委員会

本事業の目的は、DBSJ内のダイバーシティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

【活動概要】

ダイバーシティ&インクルージョン推進のためのセミナーやパネルディスカッションを通じた啓蒙活動、さらにDEIMを中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施した。

- (1) D&I推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

主催イベント：SoC2024にて合理的配慮の提供に関する招待講演を開催

共生社会を促進する「誰でも参加」の学会を作ろう－障害・ICF・合理的配慮・研究におけるアクセシビリティガイドライン－

講演者：布川清彦教授（東京国際大学）

- (2) ハラスメント防止委員会

DEIM等の主催・共催・講演イベントでのハラスメント防止活動